

## 卒業生の就業先調査 結果

### 調査対象者

令和3年度の本学介護福祉学科卒業生を採用した法人及び施設等の施設長、人事課長（9施設・事業所）

### 調査期間

令和4年12月から令和5年1月

### 調査票回収数・回収率

回収数 6通（施設・事業所）

回収率 66.7%

### 1. 施設・事業所の属性

施設・事業所の種別は、特別養護老人ホームと障害者支援施設が各2件、高齢者ショートステイ、認知症グループホーム、その他（障害児入所施設）が各1件であった。

施設・事業所の運営主体は、社会福祉法人が最も多く（5件）、次いで株式会社・有限会社（1件）であった。

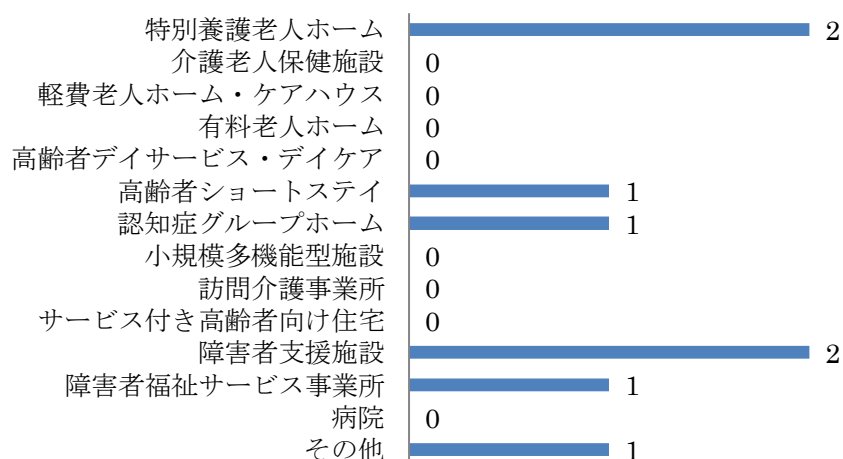


図1. 施設・事業所の種別（複数回答）

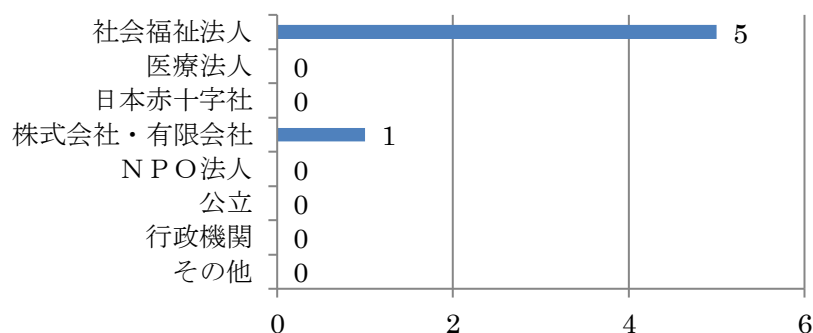


図2. 運営主体（n=6）

## 2. 卒業生の雇用状況

令和4年12月現在で勤務している本学卒業生の職種について回答を得た。

職 種	男性	女性	計
ケアワーカー（介護職）	1	3	4
その他（生活支援員）	0	2	2
計	1	5	6

## 3. 採用理由（複数回答）

★上位項目は前年度と概ね同様

本学卒業生を採用した理由として最も多くあげられたものは「介護福祉士の資格を取得している」（6件）であった。次いで、「将来性が期待できる」、「本学卒業生の実力は評価できる」（各3件）、「基礎学力がある」、「本学卒業生は定着率が高い」、「人間的に魅力を感じる」（2件）と続いた。

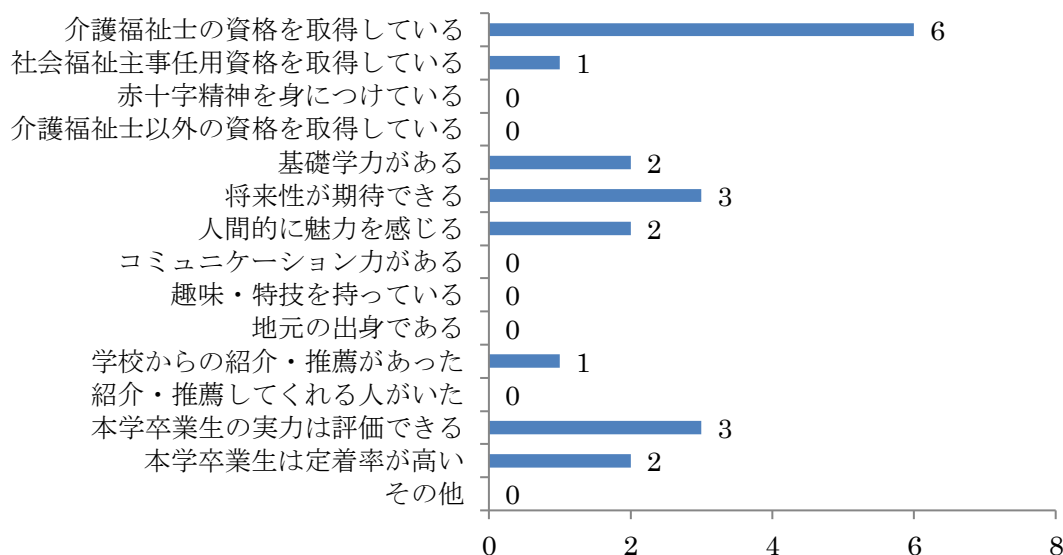


図3. 本学卒業生を採用した理由（複数回答）

## 4. 今後の採用意向

★前回調査においても「そう思う」100%

「今後も本学卒業生を採用したいと思うか」という質問に対し、「そう思う」6件（100%）であった。

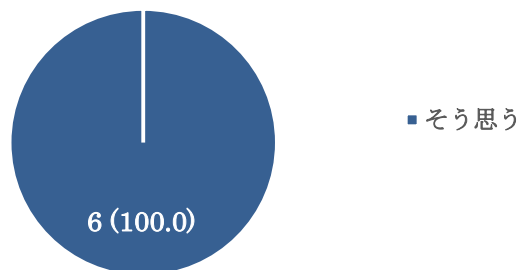


図4. 本学卒業生の採用意向（n=6）

## 5. 卒業生への評価

★前回調査より高い傾向。前回調査では「応えている」56.0%、「どちらかといえば応えている」33.3%、「どちらともいえない」「どちらかといえば応えていない」各6%

「本学卒業生が施設・事業所が求める人材ニーズや期待に応えているか」という質問に対し、「応えている」が5件(83.3%)、「どちらかといえば応えている」が1件(16.7%)であった。

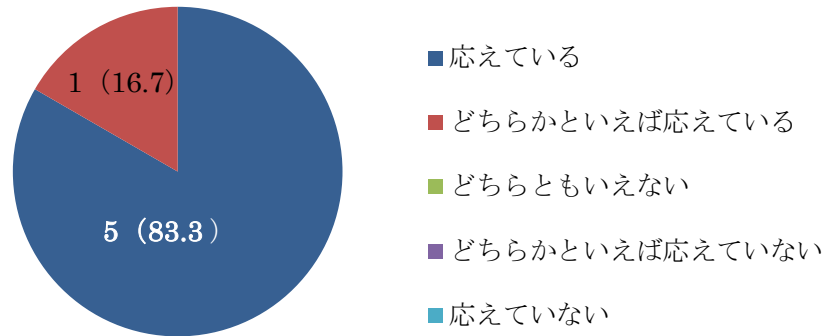


図5. 人材ニーズや期待に応えているか (n=6)

## 6. 職務遂行能力

★前回調査より低い傾向。前回調査では「高いと感じる」56.0%、「どちらかといえば高いと感じる」33.0%、「どちらともいえない」「どちらかといえば低いと感じる」各6%

本学卒業生の職務を遂行する能力や意識の水準については、「高いと感じる」2件(33.3%)、「どちらかといえば高いと感じる」4件(66.7%)であった。

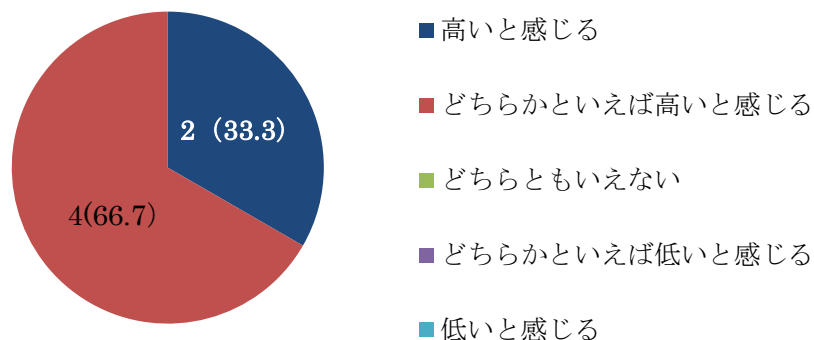


図6. 本学卒業生の職務遂行能力・意識 (n=6)

## 7. 卒業生が身に付けている能力

★「倫理観」「生活や社会への関心」「共感できる感性」「チームワーク、人間関係を築く力」「社会常識」は前回より高い。「リーダーシップ、指導力」は前回と同様に低い。

本学卒業生が、図7に示した能力等(16項目)を身につけているかどうかについて、「(身につけていると思う)から「(身につけていると思う)」までの5件法で回答を求めた。

「思う」という回答が最も多かった項目が「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」5件(83.3%)、次いで「身だしなみや言葉遣いなどの社会常識」、「人間や人々の生活、社会への関心を持てる力」、「人の痛みや苦しみに共感できる感性」が各4件(66.7%)であった。

「思う」「やや思う」を合わせて100%になった項目が「基礎的知識や基礎能力」、「仕事上の課題等に積極的に取り組む姿勢」、「自己研鑽を重ねていく姿勢」、「協調性、コミュニケーション能力」であった。

「思わない」との回答はなかったが、16項目中12項目において「どちらともいえない」との回答があった。「リーダーシップ、指導力がある」では5件(83.3%)挙げられていた。この他、身だしなみや言葉遣い、基礎的知識、感性や倫理観等の項目においても少数ではあるが「どちらともいえない」との回答があったことは重く受け止めるべき課題である。

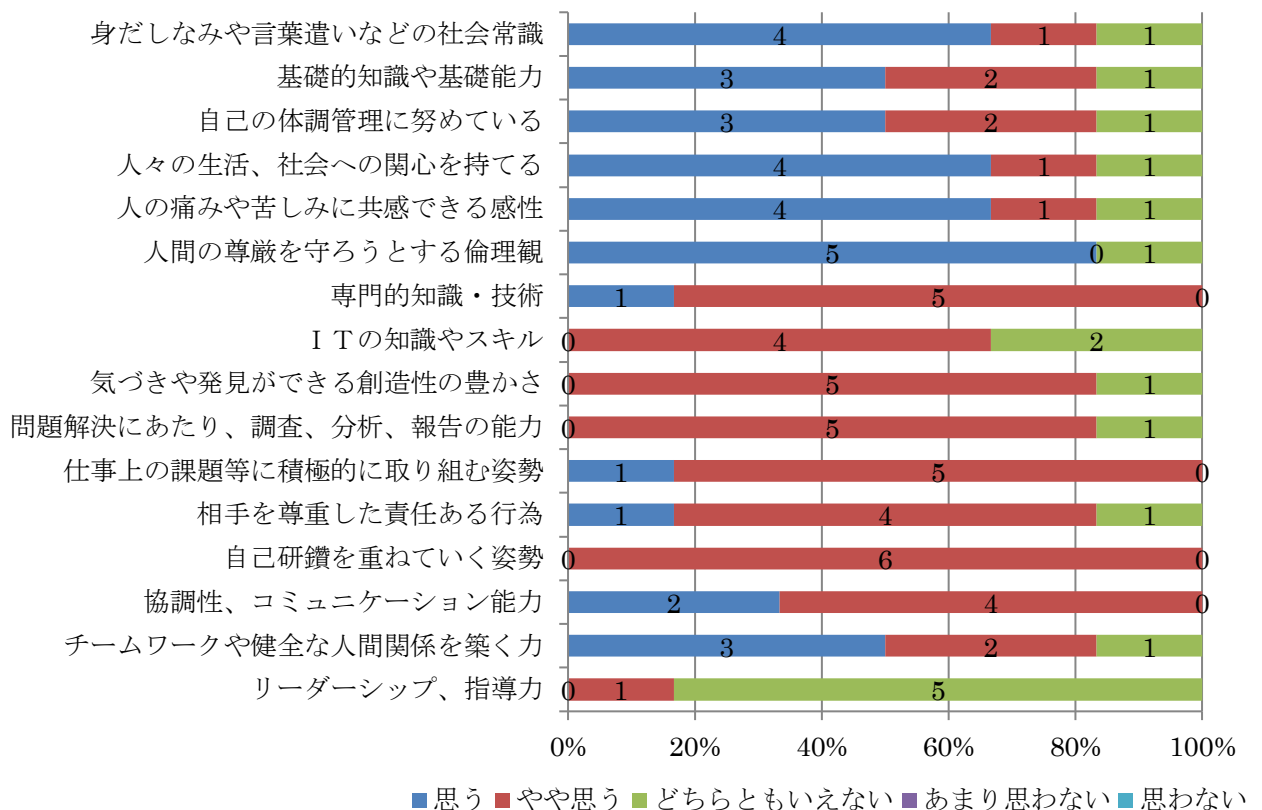


図7. 本学卒業生が身につけていると思う能力 (n=6)

★「共感できる感性」「協調性、コミュニケーション能力」の重要度が前回より大きく上昇。

「IT知識技術」の重要度が比較的低い点は前回同様。

## 8. 施設・事業所における重要視の度合い

前述の16項目の能力等を各施設・事業所がどの程度重要視しているのかについて、「重視している」から「重視していない」までの5件法で回答を求めた。

「重視している」が最も多い項目は「人の痛みや苦しみに共感できる感性」、「協調性、コミュニケーション能力」5件（83.3%）であった。次いで「自己の体調管理」、「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」、「相手を尊重した責任ある行為・行動」4件（66.7%）であった。

「重視している」と「やや重視している」とを合わせた回答が80%以上であった項目がほとんどだったが、比較的lowかった項目は「ITの知識やスキル」と「リーダーシップ、指導力」4件（66.7%）であった。

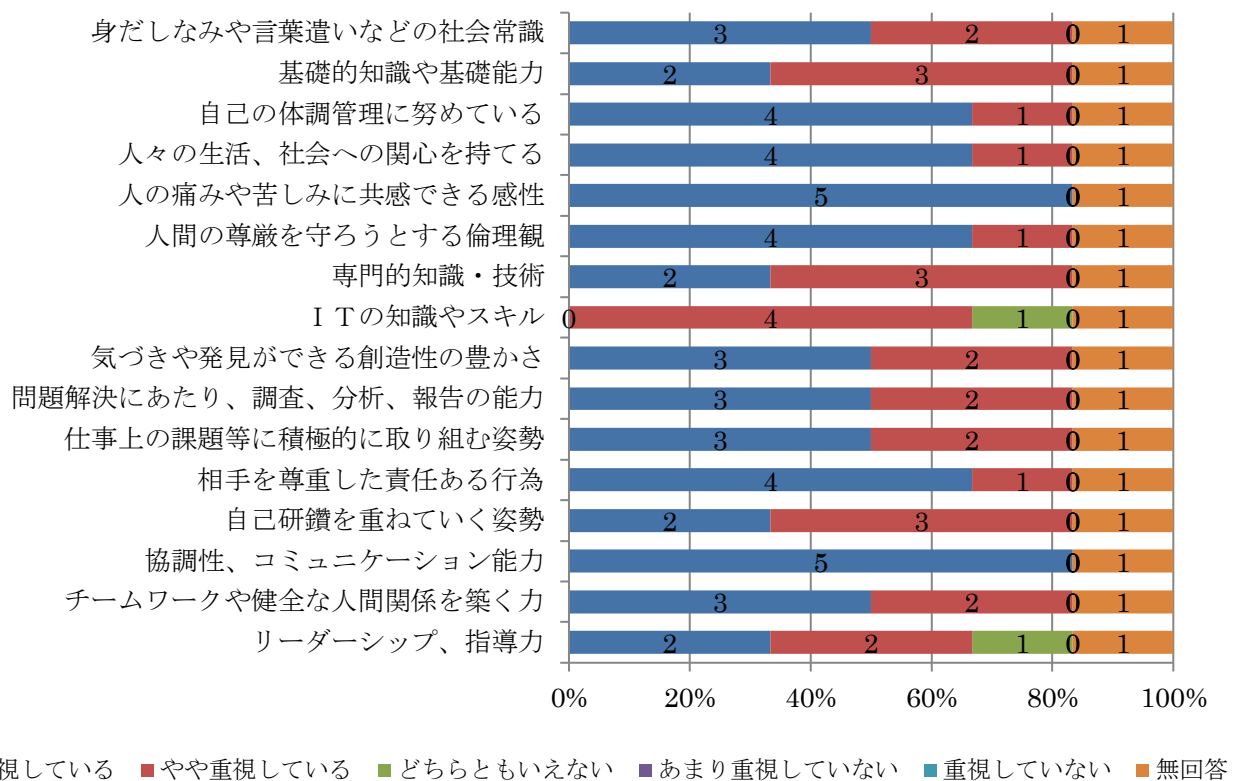


図8. 施設・事業所における重要度 (n=6)

★前回調査より高い傾向。前回調査では「高く評価できる」72.2%、「ある程度評価できる」27.8%

## 9. 本学の教育活動について

本学の教育活動についてどのように感じるかについて回答を求めたところ、「高く評価できる」5件(83.3%)、「ある程度評価できる」1件(16.7%)であった。(図9)

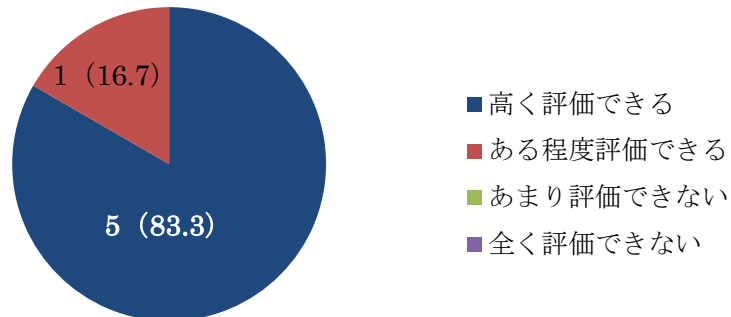


図9. 本学の教育活動についての評価 (n=6)

上記のように感じる理由について自由記述にて尋ねたところ、「高く評価できる」では5件中の3件から回答があった。「ある程度評価できる」(1件)の理由については回答がなかった。

### 1) 「高く評価できる」理由

- |  |
|--|
| ・介護に関する基礎知識を備えている  |
| ・利用者等に対する言葉がけ、マナーを学んでいる。   |
| ・介護福祉に関してはもちろんのこと、多彩なカリキュラムや実習があることで、学生の皆さんはより高いレベルの知識を身につけられると思います。 |
| ・介護福祉士養成の短大として、大いに貢献されている。   |

★上位項目は前回調査結果とほぼ同様の傾向だが、前回調査結果と比較して「基礎学力を高める教育の充実」の割合が向上している。(前回 44.4%、今回 83.8%)

## 10. 本学への期待

本学への期待について、13項目を設定し、その中から「期待する」項目について複数回答にて回答を得た。さらに、「期待する」項目の中でも「最も期待する」項目について1つ回答を求めた。

本学へ期待することとして最も多く挙げられた項目が「専門性を高めるための教育の充実」、「コミュニケーション能力を高める教育の充実」、「基礎学力を高める教育の充実」で各5件(83.3%)であった。次いで、「常識、マナーを身につけるための教育の充実」4件(66.7%)であった。(図10)

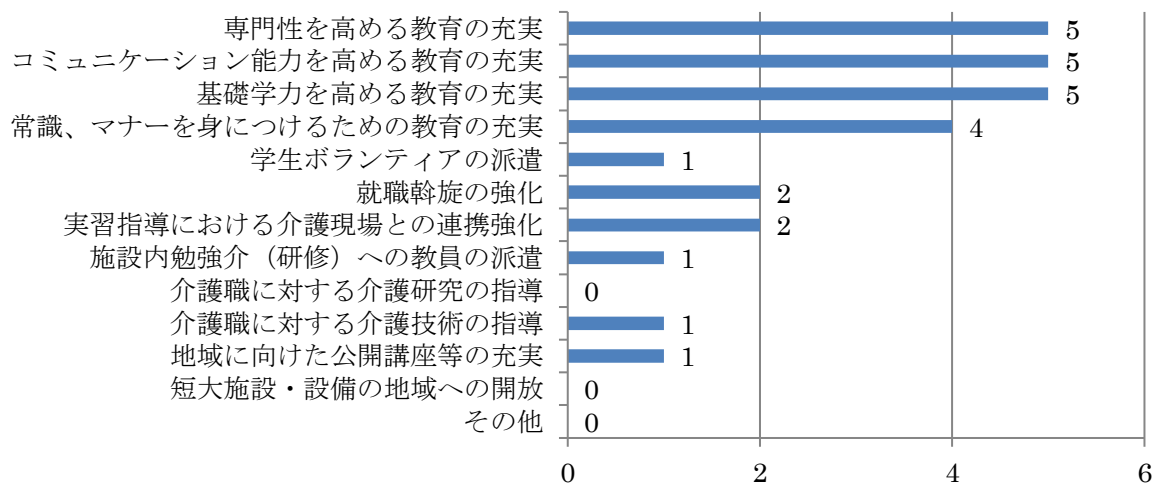


図10. 本学に期待すること（複数回答）

また、「期待する」とした項目の中で「最も期待すること」を1つ選んでもらったところ、「専門性を高める教育の充実」「コミュニケーション能力を高める教育の充実」「基礎学力を高める教育の充実」「常識、マナーを身につけるための教育の充実」がそれぞれ1件（16.7%）であった。（図11）

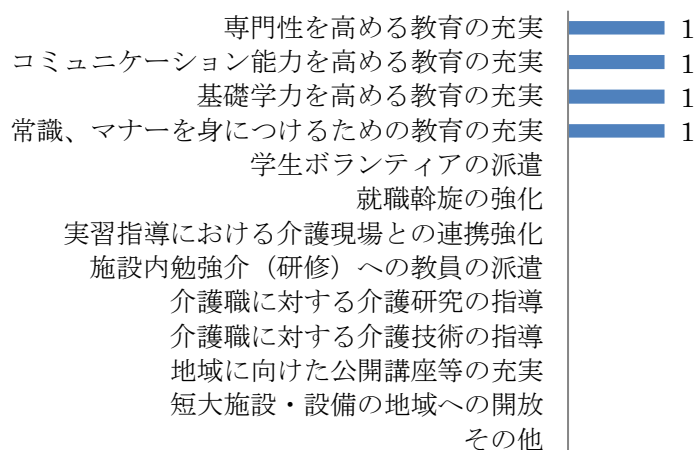


図11.本学に最も期待すること

## 11. 本学への意見・要望

本学への意見・要望について自由記述による回答を求めたが、回答はなかった。

以上